

氏名	高石篤志
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第 4038 号
学位授与の日付	平成17年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Coronary Flow Reserve after Coronary Intervention is Similar in Patients with Preserved Viability in Previous Myocardial Infarction and in Those with Angina Pectoris (生存心筋を有する心筋梗塞例と狭心症例のインターベンション後の冠血流予備能は同等である)
論文審査委員	教授 佐野 俊二 教授 大江 透 助教授 伊達 洋至

#### 学位論文内容の要旨

梗塞心筋の冠血流予備能（以下 CFR）と心筋 viability の関係は未だ十分には明らかにされていない。我々は生存心筋を有する既存の心筋梗塞 38 例と、狭心症 48 例に対し、バルーンによる経皮的冠動脈形成術（PTCA）または冠動脈内ステント留置術を施行し、直後に冠血流速度を測定した。そこから求められた CFR は両患者群で同様であった。インターベンション後の CFR が 2.0 を超える症例の割合も両患者群間で差が無く、PTCA のみを施行した例についても、術後 CFR は両患者群間で同様であった。ステント留置例では、両患者群ともに PTCA のみ施行された例に比べ、病変部内径狭窄率（%DS）が小さく、若干インターベンション後 CFR が高値となった。しかし PTCA 施行後追加でステント留置を行った例でも、両患者群間の術後 CFR に差はみられなかった。これらの結果は生存心筋を有する心筋梗塞例でのインターベンション後の CFR は狭心症例での術後 CFR と同レベルにまで回復することを示唆している。

#### 論文審査結果の要旨

本研究は、梗塞心筋の冠血流予備能（以下 CFR）と心筋 viability の関係を検討したものである。今まで陳旧性心筋梗塞例での CFR と viability の関係は検討されていなかったが、今回の検討により、生存心筋を有する心筋梗塞例でのインターベンション後の CFR は狭心症例での術後 CFR と同レベルにまで回復するという重要な知見を得た。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。